《第92回》令和三年二月の作品

〈二月十二日（金）通信句会〉

一月の出征決まり卒業す　（清助）

コロナそと声張り上げる節分会　（正雄）

イムジチの浮きたつ調べ木々芽吹く　（正佳）

初場所や桟敷に凛と相撲女子　（貴美）

なんとまあ縁起良き名よ福寿草　（奉男）

節分やワクチンを撒く夢を見て　（孝昭）

式もなく未来をめざし卒業す　（平六）

皺は死語と化したる都会の子　（前歩）

朧夜の明けても轆轤まはす音　（一江）

春めくや玻璃戸にゆらぐ日の光　（隆治）

光つつ鎖を伝ふ春の雨　（芙紗）